

たまねぎレポート【第397号】



令和2年11月26日

阪南青果株式会社

社内報

10月の天気は、気温は北日本で高く、降水量は東日本の日本海側でかなり少なく、東・西日本の太平洋側で多くなった。日照時間は北日本と東日本の太平洋側で少なく、西日本と沖縄・奄美が多かった。11月も温暖な日が多い。

気象庁の12月～2月の3か月予報によると、平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。降水量は、北日本の太平洋側で平年並みまたは多い確率ともに40%。西日本の太平洋側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。降雪量は北日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。西日本の日本海側で平年並みまたは多い確率ともに40%。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。西日本の日本海側では、平

年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の概況

建値市場の10月の野菜の販売量は、259,568トン前年比104%、平均単価はkg ¥225前年比112%。前年比で数量増の単価高であった。市場別の販売量と平均単価では、札幌市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥173前年比116%。東京市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥245前年比113%。名古屋市場の販売量は前年比113%、平均単価はkg ¥207前年比106%。大阪本場の販売量は前年比106%、平均単価はkg ¥222前年比111%。福岡市場は前年比103%の販売量で、平均単価はkg ¥187前年比109%となっている。

建値市場の10月の玉葱販売量は29,102トンで前年比114%、(前月比113%)、平均単価はkg ¥76前年比89%、(前月比97%)。で前月に続き平年水準を下回った。北海産の入荷が順調で、出荷が前進化した。何れの市場も需給は供給過剰傾向であったが卸・仲卸ともに拡販に努めた。市場別の販売量と

平均価格は、札幌市場の販売量は4,104トン前年比106%、平均単価はkg ¥63前年比100%。東京市場の販売量は10,496トン前年比108%、平均単価はkg ¥77前年比94%。名古屋市場の販売量は7,184トン前年比127%、平均単価はkg ¥72前年比96%。大阪本場の販売量は4,636トン前年比123%、平均単価はkg ¥76前年比95%。福岡市場の販売量は2,682トン前年比105%、平均単価はkg ¥76前年比89%となっている。

日本農業新聞社の、主要7地区代表荷受7社の10月の主要野菜14品目のデータの集計値では、販売量は115,889トン前年比100%、平均単価はkg ¥133前年比15%高、平年(過去5年平均)比3%安で、2か月連続で平年を下回った。販売量が前年比増となった品目は、ジャガイモが前年比14%増、結球レタスとハクサイが6%増、ニンジンが4%増など6品目。タマネギは3%増。販売量が前年比減となった品目は、ナスが前年比16%減、ピーマンが15%減、トマトが10%減など8品目。価格が前年比高となった品目は、ピーマンがkg ¥491で前年比55%高、ジャガイモがkg ¥105で44%高、キュウリがkg ¥366で31%高など12品目。前年比安となった品目は、タマネギがkg ¥61で前年比5%安、結球レタスがkg ¥121で前年比2%安の2品目。

東京都中央卸売市場の10月の野菜の入荷量は、136,996トン前年比102%(前月比113%)。平均単価はkg ¥245前年比113%(前月比98%)で弱含みで推移した。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、バレイショとニンジンが前年比111%、タマネギが108%など11品目。入荷が前年比減の品目は、トマトが前年比83%、ピーマンが86%、ナスが88%など4品目。販売価格が前年比高の品目は、ピーマンがkg ¥563で前年比147%、バレイショがkg ¥126で137%、キュウリがkg ¥423で136%。前年比安の品目は、タマネギがkg ¥77で前年比94%、レタスがkg ¥145で98%の2品目だけである。

東京都中央卸売市場の10月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	136,996	101.5	113.5	245	114.5	98.4
た ま ね ぎ	10,496	107.6	108.9	77	94.4	92.8
キ ャ ベ ツ	17,752	101.0	115.1	90	120.6	75.0
レ タ ス	8,448	103.8	86.0	145	98.8	118.9
は く さ い	18,691	106.7	194.9	68	118.6	70.8
だ い こ ん	11,550	103.5	135.0	98	120.7	91.6
ば れ い し ょ	8,506	111.2	112.7	125	136.6	105.9
き ゆ う り	5,505	90.0	76.9	423	136.3	122.3
に ん じ ん	9,177	110.5	129.7	125	115.7	107.8
ト マ ト	4,933	82.7	70.3	558	123.0	149.2
ね ぎ	5,516	105.5	145.3	396	120.3	115.8
か ぼ ち ゃ	3,388	101.0	104.3	154	109.8	112.4
な が い も	971	120.9	102.3	319	104.4	87.9
れ ん こ ん	1,112	126.6	130.2	379	101.8	82.8
に ん に く	201	72.8	92.2	1,169	158.8	126.7

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の10月の玉葱の入荷量は10,496トン前年比108%（前月比109%）で、北海物の占有率は98%に上昇し、北海物の独断場となった。北海物の入荷は10,240トン前年比108%、占有率98%前年比1ポ

イントアップ。中国物が175トンの入荷で前年比78%、占有率2%前年比0.6ポイントダウン。兵庫物は45トンの入荷で前年比65%。総平均単価はkg ¥77前年比94%(前月比93%)でジリ貧状態となった。産地別では、北海物はkg ¥76前年比95%。中国物はkg ¥89前年比101%。兵庫物はkg ¥156前年比120%となっている。

11月に入り、北海物の出荷調整の情報が流れ、荷受け各社に多少の市況回復の期待感が生じたが、産地の足並みが揃わず、入荷は減少せず市場内に玉葱が溢れ、L大 ¥1,300キープの販売姿勢も、仮置き場が満杯になった卸では、L大 ¥1050の見切り売りが見受けられた。中旬になっても、需給は改善せず、荷余り現象が続いた。産地JAの中には出荷焦りが見受けられ、着値L大 ¥1,000、L ¥950~900の提案も発生した。今週に入り入荷は減少傾向だが、依然荷動きは鈍く在庫を抱えながらの販売が続いているものの、以前の様な投げ売りはなくなっている。週末からホクレンの出荷調整が実施されるとのことで、在庫処分が出来れば底値脱出になると期待している。

11月2日~20日の販売量は6,381トン前年比107%、総平均単価はkg ¥74前年比94%。産地別では、主力の北海物の入荷は6,248トン前年比109%、平均単価はkg ¥74前年比94%。中国物の入荷は110トン前年比72%、平均単価はkg ¥91前年比105%。兵庫物の入荷は17トン前年比49%、平均単価はkg ¥177前年比129%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の10月の玉葱販売量は7,184トン前年比127%(前月比126%)で前年比、前月比とも大幅増となっている。北海物が99%を占め昨年と同様の北海物オンリーの販売となった。北海物の販売量は7,141トン前年比128%、占有率は99%で前年と同じ。中国物は26トン前年比15

9%。兵庫物は15トン前年比80%。総平均単価はkg72前年比96%(前月比96%)で、ジリ貧傾向で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥71で前年比95%。兵庫物はkg¥219前年比134%。中国物はkg¥86前年比115%となっている。

11月に入りっても、入荷は順調だったが、引きは弱く相場は弱含み傾向が続いた。北みらい、美幌、ふらの等のJA物が主力で、仕切り値は変わらず、極力採算割れが増えない様に勉売しているため、在庫が膨らみ苦労している。今週も相場は変わらず、動きは鈍く在庫は積み上がっている。ホクレンでは、今週後半から出荷調整を実施する計画で、入荷減を予想している。出荷調整に依る効果は未知数だが、市況の回復を期待している。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の10月の玉葱の販売量は、4,636トン前年比123%(前月比121%)で前年比・前月比とも大幅増となっている。前月と同様で北海物の占有率が上昇し、兵庫物の占有率が低下した。主力の北海物の販売量は、4,097トン前年比141%、占有率88%前年比11ポイントアップ。兵庫物は527トン前年比74%、占有率11%前年比8ポイントダウン。総平均単価はkg¥76前年比95%(前月比93%)の横這い相場で弱気配のムードが続いた。産地別月間平均単価は、北海物はkg¥67で前年比88%。兵庫物はkg¥151前年比155%。となっている。

11月に入っても、入荷減少傾向の兵庫の冷蔵物が強保合、入荷潤沢の北海物が弱保合の動きであったが、日を追って兵庫物は注文(予約)販売以外は引き合い弱く、予約以外は安値が多くなっている。北海物は入荷潤沢で引き合い弱く、安値中心の販売が続く。中旬には荷受けシェア競争で北海物の入荷が増加傾向となったが、相場に変化はなく、弱含みで推移した。連休市明けの今

週は、ホクレンの集荷調整が近いとの情報があり、卸の多めの集荷傾向と、仲卸の買い溜めで流通段階の在庫が増加している。週末から年末にかけて、多少の値上がりを期待している。

11月2日～20日の入荷量は2,889トン前年比101%、平均単価はkg¥72前年比94%。産地別では、主力の北海物のは2,589トンで前年比108%、平均単価はkg¥63前年比88%。兵庫物のは295トン前年比66%、平均単価はkg¥145前年比139%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の10月の玉葱販売量は、2,682トン前年比105%（前月比109%）で、前月に続き前年比、前月比ともに増となっている。北海物が2桁増で、府県産が大幅減となっている。北海物の占有率は93%に上昇し、販売量は2,494トン前年比115%、占有率は93%で前年比8ポイントアップ。中国物は116トンで前年比65%、占有率は4%前年比3ポイントダウン。長崎物は46トンで前年比69%、占有率は2%前年比1ポイントダウン。兵庫は17トンで前年比65%。佐賀物は6トンで前年比9%。総平均単価はkg¥76前年比89%（前月比90%）。産地別の平均単価は、北海物はkg¥74前年比89%。中国物はkg¥83前年比108%、長崎物はkg¥106前年比106%。佐賀物はkg¥83前年比94%。となっている。

11月に入ってから、鳴かず飛ばずの変化のない販売環境が続いている。香川の冷蔵物は週1回600～700ケースの入荷で、日割り配分をしながら販売している。品質は良好で定価格販売となっている。北海物は荷動きが鈍く、北みらい、ふらのを中心にJA銘柄の販売に留めている。商系から販売打診があるものの、販売する余裕がない。在庫は2万ケース程度抱えている。11月に入ってから、販売環境が厳しく本当に売れなくなった。年末に向けて多少の

好転を期待している。

11月2日～20日の販売量は1、527トン前年比90%、平均単価はkg¥74前年比93%。数量減の単価安となっている。

11月24日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷141トン せり売りなし 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,000、L大 ¥1,500～1,000、L ¥1,400～1,000、
M ¥1,100～ 900。

【太田市場】 入荷380トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,200、L大 ¥1,500～1,200、L ¥1,400～1,200、
M ¥1,400～1,200。

【名古屋北部】 入荷247トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,200 L大 ¥1,400～1,200、L ¥1,400～1,200、
M ¥1,300～1,100。

【大阪本場】 入荷193トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,200、L大 ¥1,400～1,100、L ¥1,300～1,100、
M ¥1,200～1,000。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300～1,000、L ¥1,800～1,200、M ¥1,600～1,200。

【福岡市場】 入荷136トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,300、L大 ¥1,500～1,400、L ¥1,500～1,400。
M ¥1,300～1,200。

香 川 10kgDB2L ¥1,500～1,400、L ¥1,800～1,700、 M ¥1,800～1,700。

供給(産地)の動き

10月の玉葱の出回り量は、9月に続き北海産が前年比増、府県産が前年比減で、北海産の寡占化が進み、北海物オンリーの販売となっている市場が殆どである。ホクレンの10月の調査では、北海産の生産・出荷予想量が上方修正され、11月も厳しい販売環境が続いている。11月は北海道産地では、倉入れの最盛期となったが、予想外の増収で、貯蔵庫の収容量を上回り、出荷を焦っている処もある。現在の市況は安値であった前年を下回っており、産地関係者は、再生産価格の20kg¥1,500の市場価格を願望している。ホクレンでは、今月末から出荷調整で価格浮揚を計画しているが、年内出荷の進捗率を前年比2%アップの64%強を達成するには、並大抵ではない。GO・TOトラベル等の施策で、外食需要が回復傾向となったが、昨今の感染拡大が懸念される。

府県の冷蔵物は、在庫量が少なく、春先まで日割り出荷となり、市況に影響するほどの出回りはない。輸入は、相手国のマーケットが堅調で、通期契約以外は減少する。

北海道産地

8~11月の生食向けの出荷は、前年比10~8%多いと予想している。亦、台湾・韓国向けに、22,000トン前後輸出されている。反面、加工向けの出荷は減少傾向で後ズレしているし、流通段階での在庫も多い。ホクレンの10月の生産・出荷の概況報告では、前回報告を2%上方修正され、出荷予想量は前年比27,300トンの増加となっている。生産者は再生産価格までの値上がりを期待している。倉入れ作業の終了で、出荷調整は容易になるが、供給過剰傾向が続く現状で、強力な出荷調整は春先に供給過剰を招くことになり、出荷調整による価格浮上策は、後期の需給バランスを崩すことに繋がり、見極めが困難な作業となる。

府県産地

冷蔵物の主力産地である兵庫(淡路島)では、冷蔵物の在庫は少なく、春先まで続けられるよう数量調整をしながら出荷している。現在、市況高で推移しているものの、数量減と商品化率の低下で実質の手取りは少ない。次シーズンの定植が始まっているが、播種・育苗は温暖な気候に恵まれ、苗立ちが良く定植は前進化している。近年、中晩生は遅植えの方が球締りが良く、耐病性があるとして、定植を遅らす傾向にある。

佐賀では、10月下旬に定植した極早生トップゴールドの生育が順調で前進化している。現在、草丈は30～40cm、生葉数は5～6枚。今年の作付は早生系は増反、中晩生は減反の予想。現在、中晩生は定植が始まったばかり。

静岡、1月から出荷が始まる極早生は、温暖・適雨に恵まれ生育順調で前進化していると聞いている。

輸入動向

10月の輸入は、速報値で19,711トン前年比88%。日本のマーケットは、北海産の大豊作で、市況は前年の安値を下回る価格水準で推移しており、依然品余り現象が続いている。他方、輸入相手国である中国、アメリカの国内マーケットは堅調で国内向け重視の販売となっている。主力の中国物の輸入量は19,359トン前年比87%、アメリカが353トン前年比91%となっている。中国物の現在の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$9.00。前年比\$2高である。

12月の市況見通し

何れの市場も売れ行き鈍く、相場は産地の希望値を下回り、採算割れの販売に四苦八苦の状態である。荷余り傾向で在庫を抱えながら販売している卸が多

い。卸は在庫処分の面からも産地の出荷調整を希望している。出荷調整で動きが回復すると、希望値を値上げされると売れ行きが止まる。と懸念する卸もある。生産過剰の玉葱を希望価格(高値)で販売することに無理がある。寡占化が進んでいる北海物の出荷数量・価格調整はホクレンの手中にあり、傍目からは見通し難であり、ホクレンの販売戦略を凝視しながら、対策を講じる以外に道はない。総体的には在庫過多で、値上げには出荷調整で生食販売を減らし、輸出・加工向けを増やすか、販売期間を夏まで延長するか、余剰分を廃棄するか、になる。いずれにしても、当面はL大¥1,500~1,400が産地も市場も納得出来る価格水準だと思う。(了)